

令和5年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 基本的な生活習慣を確立させるとともに一人一人の生徒がタブレット端末を活用する個別学習や協働学習を通して、思考力・判断力・表現力を身につける授業を実践することで、生徒の学習意欲を喚起し、進路実現につなげていく。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への指導を通して意識改革を図り、基本的な生活習慣を確立する。	生徒課 各学年 教務課	朝学習の実施や登校指導により、近年1日平均遅刻数は5人以下となっている。一昨年度の4.7人から、昨年度は3.9人に減少しており改善傾向にある。	【成果指標】 遅刻数が減る。	遅刻者が1日に A 3人未満 B 4人未満 C 5人未満 D 5人以上	C, D場合、生徒への働きかけを再検討する。	毎月の集計値
	② 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	生徒課 各学年	学校生活における正しい服装容儀を守り、品位ある行動を取らせるため、学年団を中心にきめ細やかな指導を継続している。	【成果指標】 自らルールを守る生徒が増える。規範意識を育てる。	私は（生徒は）校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A+Bの合計が90%未満の場合、指導方法を検討する。	7月と12月に生徒を対象にアンケートを実施
	③ 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。	相談室 各学年 生徒課	いじめ等の問題は相談室と学年、生徒課が中心となって対応しているが、全教職員で共通理解し迅速に対応する必要がある。	【努力指標】 全教職員が共通理解しいじめ等の問題が起こらない明るく健全な学校を目指す。	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	C+Dが10%以上の場合、改善策を検討する。	7月と12月に教員を対象にアンケートを実施
	④ 一人一台タブレット端末を効果的に活用する等、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する	教務課	昨年度の最終集計では、授業が理解できたとする生徒が81%台であり、わかりやすい授業づくりに向け工夫に努める必要がある。	【満足度指標】 授業を理解できたとする生徒が増え、自ら授業に参加する。	授業を理解できるとする生徒が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	C, Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に生徒を対象にアンケートを実施
	⑤ 総合的な探究の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	進路課 各学年 教務課	探究的な学習、進路ガイダンスやインターシップ等を通して、自己の在り方生き方を見つめ、進路実現に繋げていく。	【満足度指標】 生徒自身が自己のキャリア向上を認識でき、十分な進路知識を得られる。	キャリア教育に関する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C, Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に生徒を対象にアンケートを実施
	⑥ 3年生の進路実現に向けて、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	進路課 3学年	4月現在、3年生の57%が進学を、43%が就職を希望している。基本的な生活習慣も含め、保護者と連携しながら継続的に指導していくことが必要である。	【成果指標】 進学者は第1志望校への合格100%を目標とする。就職希望者は、内定率100%を目標とする。	第1志望校への進学、就職内定が実現した生徒が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C, Dの場合、取組等を再検討する。	年度末に集計

2	特別支援学校の生徒との交流やボランティア活動などを通して、年齢や性別、国籍や障害の有無などに関係なく全ての人と助け合い支え合う共生社会を創り上げていく人材の育成に努める。	①	特別支援学校の生徒との交流を通して、共生社会の実現に向け思いやりの心を育む。	インカレシア推進室 各学年 生徒会室 部顧問	交流授業や学年行事、一部の部活動で交流を行っている。	【満足度指標】 特別支援学校の生徒との交流に積極的に参加し、充実した活動を行っている。	特別支援学校生徒との交流を通して生徒は A 積極的ににかかわり満足している B おおむね満足している C 満足度が低い D 満足度がとても低い	A+Bの合計が90%未満の場合、活動内容の改善を検討する。	実施した学年や部活動にアンケートを実施
		②	地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動の機会を増やし、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	総務課 生徒会室 各学年	地域一斉清掃活動に多くの生徒が参加し取り組んでいるが、年に一度の実施であったため高い満足度につながらなかった。	【満足度指標】 生徒が地域との交流やボランティア活動に積極的に取り組んでいる。	地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動などに A 複数回参加し、積極的に取り組んだ B 回数は少ないが、一生懸命に取り組んだ C 参加する機会がなかった D 参加したいと思わなかった	A+Bの合計が50%未満の場合、改善策を検討する。	7月と12月に生徒を対象にアンケートを実施
3	部活動のさらなる活性化を推進し、技能の向上を図るとともに、心豊かな人間性と社会性を身につけた生徒を育成する。	①	新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、他の部活動への再入部を強く勧めていく。	生徒会室 全教員	入学時に部活動加入を勧めていることもあり昨年度82%から、今年度現時点では77%に加入率が減少した。このあと退部する生徒が見受けられることが例年課題であるため、丁寧に指導していく必要がある。	【成果指標】 部活動に加入し、放課後に校舎校地内外で継続的に活動する生徒が増える。	1・2年次生の部加入率が A 85%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	部活動加入率が50%未満の場合、早急に改善を検討する。	5月と10月の集計値
		②	積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも努める。	生徒会室 部顧問	部活動の加入率に大きな変化はないが、部活動指導を充実させ、学校の魅力化・活性化に繋げたい。	【努力指標】 できる限り部活動の指導に携わる。	部活動の指導について A 積極的に支援し指導している B 概ね支援し指導している C あまり支援せず指導していない D 殆ど支援せず指導していない	A+Bの合計が70%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に教員を対象にアンケートを実施
4	生徒・保護者・地域の理解を得ながら、ポストコロナの学校行事や業務の進め方の見直しを図り組織的な業務に努めることで、教職員の多忙化改善に取り組む。	①	教職員の勤務時間調査から、働き方改革を把握し、働き方改革に対する意識の向上を目指す。	全教員	働き方改革を意識し、時間外勤務縮減に努めている教職員の割合は増えているが、現在の教員数でも達成感が得られるよう行事や業務の進め方の見直しを図りながら時間を意識した効果的な業務遂行に、より一層取り組む必要がある。	【努力指標】 全教職員が業務改善を意識した提言と、時間外勤務の縮減に努めている。	業務改善を意識し、効率化につながる提言を行い時間外勤務の縮減に努力している。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A+Bの合計が85%未満の場合、早急に改善を検討する。	7月と12月に教員を対象にアンケートを実施